

事後評価書

要因 事業	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の維持管理状況	(5) 県民の意見
道路事業	<p>○事業名 特殊改良事業 路線名及び地区名 一般国道498号 鳴瀬橋 所在地 武雄市橋町 工期 ・当初工期 平成8年度～平成13年度 ・変更工期 平成8年度～平成14年度</p> <p>総事業費 ・当初事業費 990百万円 ・変更事業費 1,454百万円</p> <p>事業内容 事業延長 L=433m ・橋梁 N=1橋(L=63m) ・道路改良 L=370m</p> <p>関連する事業 ・県道武雄福富線(医王寺バイパス)</p> <p>背景 国道498号は、鹿島市を起点とし、武雄市・伊万里市を經由し長崎県佐世保市を終点とする社会的、経済的に重要な幹線道路であるが、幅員が狭小であった鳴瀬橋を中心に、通勤時間帯に交通渋滞が慢性化していた。 また、橋小学校・武雄中学校の通学路として利用されているが、自転車歩行者道がなく、児童生徒の登下校時の安全が脅かされている状況であった。</p> <p>目的 通行車両の渋滞解消を図るとともに、交通弱者である児童生徒等の安全確保のために、車道および自転車歩行者道を整備するものである。</p> <p>【整備前写真】 </p>	<p>生活環境 交通量は1～2割程増加しているが、沿線地域の生活環境への影響は、極めて小さいものである。 また、騒音・振動に対する地元等よりの苦情等はない。</p> <p>自然環境 現道拡幅による道路改良工事であり、大規模な山切り工事等は行っていないため、自然環境への影響は極めて小さいものである。</p> <p>社会文化環境 自転車や歩行者の安全と車両の円滑な通行が確保されている。</p> <p>沿道の利用状況 ・福祉施設が開設(地域グループホーム施設) </p>	<p>交通量の推移(H11 H17) (武雄福富線) ・自動車交通量(台/日) 11,754 12,997(1.11) ・内大型車交通量 1,257 1,398(1.11) (国道498号) ・自動車交通量(台/日) 5,239 6,465(1.23) ・内大型車交通量 947 1,249(1.32)</p> <p>自動車交通量が増加しているが、特に大型車のすれ違いが容易になり大型車の増加比率が大きい。</p> <p>周辺の開発状況 ・武雄市街に多店舗型ショッピングセンターが出店  </p>	<p>今回事業により整備された施設は、一般的な道路であり、県が管理する他の道路と同様の維持管理及び補修を行っている。 橋梁については、平成21年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、定期的な点検を行い、効率的な維持管理を行うこととしている。</p> <p>【県内道路の維持管理内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な道路パトロール(2回/週) 伐採(1回/年) 落下物の撤去 動物の死骸処理 局部損傷(ポットホール等)の修繕 等 <p>【橋梁の維持管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検(1回/5年) H20年6月に定期点検を行っている。 上部工の主桁等は、鋼製の橋梁であるが、塗装の塗り替えの必要のない耐候性鋼材を使用し、維持管理費の低減を図っている。 	<p>【メリット】 車道が広がったことで、すれ違いがスムーズになり、安全になった。 右折レーンが設置されたことにより、右折待ちによる渋滞が無くなった。 自転車歩行者道の整備により、安心して通学出来るようになった。</p> <p>【デメリット】 車のスピードが増し危険を感じる。</p>
		<p>(6) 事業の効果</p> <p>交通の難所であった鳴瀬橋が、橋梁の架け替えにより、車道拡幅・右折レーンの設置を行い通行車両の円滑な走行を確保し、武雄市から鹿島市や白石町、佐賀市への移動が容易になった。</p> <p>旧鳴瀬橋の設計基準が古く、耐震性が弱く、また、橋脚の洗掘の恐れがあったが、架け替えにより現在の基準に整合した橋梁になっており、安全性が確保された。</p> <p>自転車歩行者道を整備したことにより、歩行者や自転車の安全確保と車両の円滑な通行が確保されている。</p> <p>【整備後写真】 </p>	<p>(7) 地域住民との関わり</p> <p>当該事業は、地元からの要望もあり、事業に着手したものである。 一部用地買収が難航したが、地元の協力を得て、事業が進められ、予定より1年の遅れで完成することが出来た。</p> <p>【整備後写真】 </p>	<p>(8) 今後の課題等</p> <p>今回の事業は大幅な遅れはなく完了したが、他の道路事業においては、地元調整や用地交渉の難航により、事業期間が長期化している箇所もある。</p> <p>現地の詳細な調査により、地盤沈下対策として、地盤改良工が必要となり、事業費がかなり増加した。</p>	<p>(9) 新規箇所評価、再評価への反映、改善点等</p> <p>○改善点 (地元との合意形成) ・実施環境(関係市町、関係団体の事業推進体制、地元調整、同意状況、確約書の提出等)</p> <p>(事業計画) ・計画策定時の的確な調査を実施し、全体事業費の信頼性を高める。</p> <p>○期待できる改善効果等 (地元との合意形成) ・事業進捗の円滑化が図られ、事業効果の早期発現が期待される。</p> <p>(事業計画) ・適切な事業計画の立案が可能となる。</p>